

歯科口腔外科新シリーズ

北アルプス医療センターあづみ病院
歯科口腔外科副部長 飯島 韶

●歯根囊胞(しこんのうほう)

前回、お話しした親知らずに次いで、歯科口腔外科で扱う機会が多い疾患が歯根囊胞です。

囊胞とは身体の中に形成された液状内容物を含む袋状の病変を指し、口腔内でも舌や唾液腺などの軟組織や顎骨内に発生します。なかでも歯の根尖(歯根先端)部の顎骨中に発生した囊胞を

歯根囊胞といい、むし歯などで歯髄が壊死した歯や過去に根管(歯髄が入っている管)を治療

した歯に起こります。

根管内に何らかの理由で感染が起こると、根の先端を経由して顎の

初期には無症状で経過し、歯科医院でのレントゲン撮影で指摘されることも多い歯根囊胞ですが、周囲の骨を吸収しながら増大していくにつれ、痛みや腫れ、膿孔(膿の出口)の形成などの症状が出現します。治療せずに放置しておくと、下唇・顎先の皮膚に痺れが生じたり下顎骨が空洞化し骨折に至る場合もあります。

歯根囊胞の治療法

①根管治療(歯科的アプローチ)

囊胞が小さい場合、歯を削ったり、被せ物や詰め物などを除去し根管内から清掃、洗浄、消毒を行います。根管治療によつて痛みや炎症などが治まつたら、根管に薬剤を充填し歯冠を修復します。

②囊胞摘出術・歯根端切除術
(口腔外科的アプローチ)

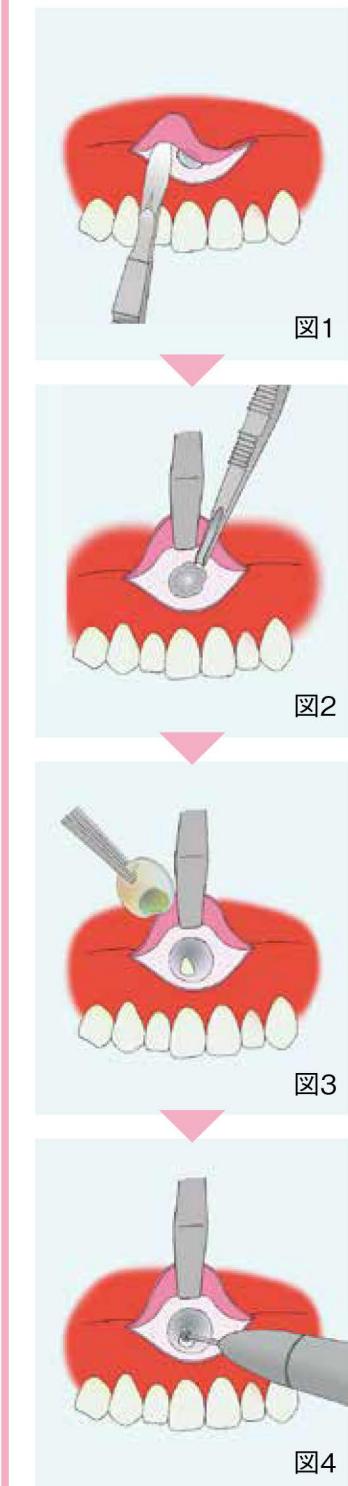
根管治療で症状が改善しないときや囊胞が大きい場合に行います。局所麻酔が奏功したら歯肉を開き(図1)、骨を削り囊胞を露出させます(図2)。囊胞を周囲の骨から剥がし摘出し(図3)、露出した歯根根尖を切除します(図4)。洗浄後、縫合して終了です。

③抜歯

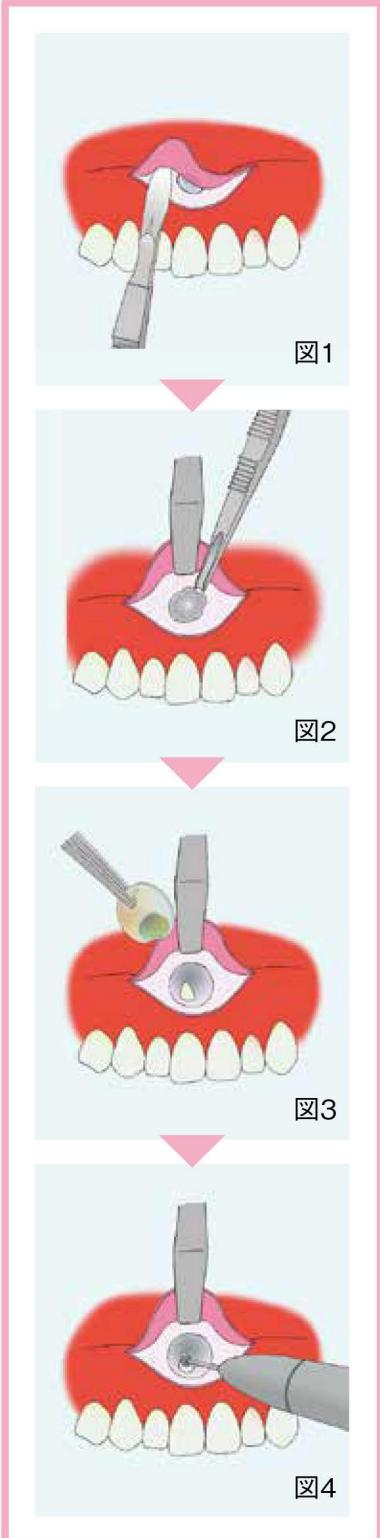
①②の治療が出来ない場合は、原因歯を抜歯し、抜歯窩から囊胞を摘出します。

歯根囊胞は初期の小さな病変であれば、歯科医院での根管治療で完治する疾患です。大きくなるに従い様々な症状が出現し治療方法も侵襲を伴うものに変わつ

ています。



▲写真1



根尖や根管(歯髄)に感染をきたさぬよう、日々のブラッシングで虫歯予防をするとともに、かかりつけ歯科医院を定期受診しチェックを受けることをお勧めします。